

2025 SPRING JAF MOTOR SPORTS

JAFスポーツ [モータースポーツ情報] 第59巻 第2号 2025年5月1日発行 (年4回、2、5、8、11月の1日発行)



JAFスポーツ

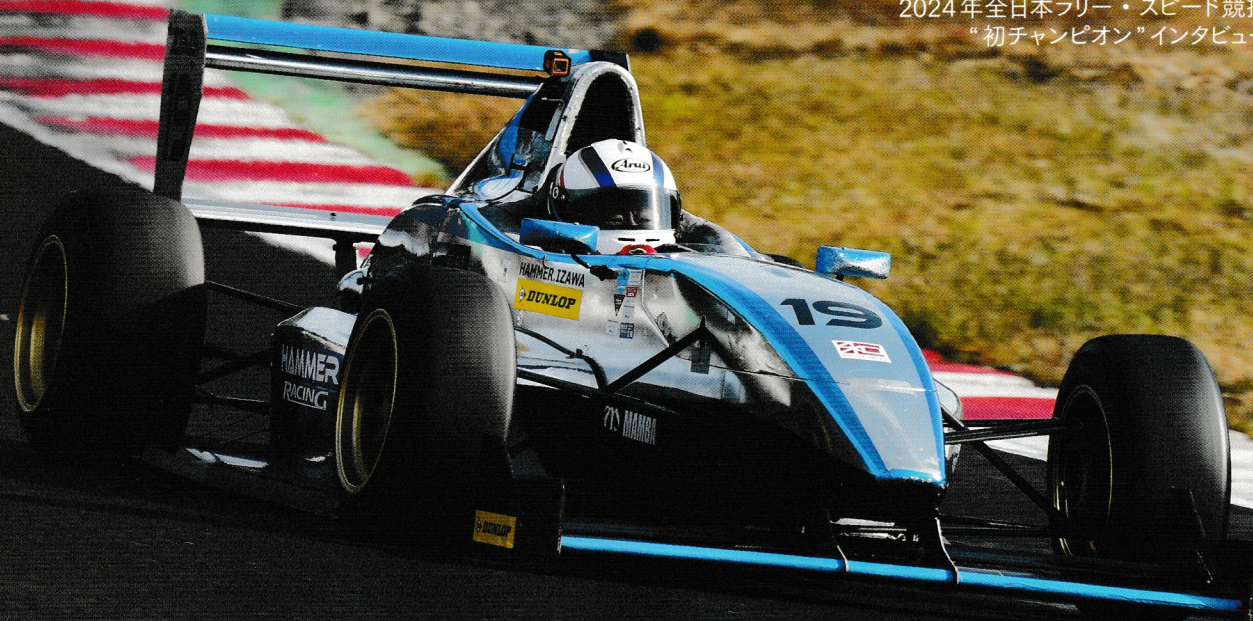
王者の逡巡

高みに挑む若獅子たちの苦悩



初栄冠の誉れ

2024年全日本ラリー・スピード競技
“初チャンピオン”インタビュー



2024年JAF地方選手権チャンピオン

全日本ラリー選手権はラリー三河湾で幕開け JN1 勝田範彦／保井隆宏組が総合優勝を飾る

PHOTO / 遠藤樹弥 [Tatsuya ENDOU]、大野洋介 [Yousuke OHNO]、小竹充 [Mitsuru KOTAKE]、JAF スポーツ編集部 [JAFSPORTS]
REPORT / JAF スポーツ編集部 [JAFSPORTS]



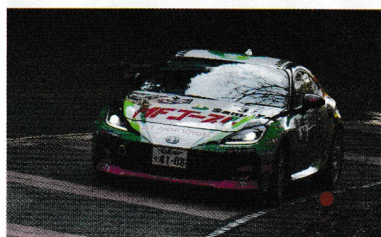
2月28日～3月2日、全日本選手権の先陣を切って2025シーズンが開幕した今大会。JN1クラスは勝田範彦／保井隆宏組が優勝。2位はヘイキ・コバライネン／北川紗衣組、3位は奴田原文雄／東駿吾組。JN2クラスは山田啓介／藤井俊樹組が制した。



全8戦で争われる全日本ラリー選手権がラリー三河湾2025で開幕した。今年も愛知県蒲郡市のラグナマリーナ周辺を拠点として14SSを設定。サービスパーク近隣のKIZUNAには今年もギャラリーステージが設置され、モリゾウ選手や勝田貴元選手によるデモランも行われた。

JN1クラスは昨年の王者、新井大輝選手が車両トラブルで停止する波乱から始まる。今季からファビアR5に乗り換えた鎌田卓麻選手が序盤をリードするも、勝田範彦／保井隆宏組が逆転勝利を飾った。

JN2はMORIZO Challenge Cup初代王者の山田啓介選手が優勝。JN3はGR86の山本悠太／立久井和子組、JN4は高橋悟志／箕作裕子組が優勝。JN5は小川剛／山本祐也組が久々の優勝を飾った。新設のJN-Xクラスは、RAV4 PHEVを投入した天野智之／井上裕紀子組が、熟成半ばながらもデビューウィンの快挙を成し遂げた。



緒戦を制したJN3山本悠太／立久井和子組。下口紘輝／小林一貴組とのK-oneワンツーとなった。



排気量上限が高められた新設JN-X(環境対応)クラスにRAV4 PHEVを投入した天野智之／井上裕紀子組が優勝。



MoSRAとJMRC全国ラリー振興事業委員会が 通信困難を解消する実証実験を三河湾で実施

PHOTO / JAF スポーツ編集部 [JAFSPORTS] REPORT / JAF スポーツ編集部 [JAFSPORTS]

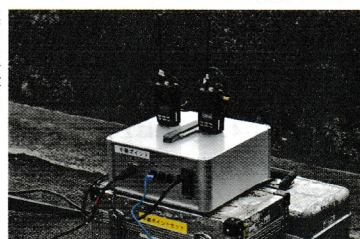
国内モータースポーツでは、競技役員の連絡手段として「モータースポーツ無線協会(MoSRA)」が管理するモータースポーツ専用無線が使われている。

しかしラリーについては、競技フィールドが広範で、地形などの影響により通信困難なスポットが生じやすい課題があった。

MoSRAとJMRC全国ラリー振興事業委員会は、これまでラリーにおける通信困難の解消策を検討してきたが、このたびJVCケンウッドとソフトバンクの協力を得て、衛星経由のインターネット回線を利用し、ラリー現場の無線交信を、インターネットによる音声通信で遠隔地に送ることに成功。



JVCケンウッド製の試作中継機。ソフトバンクの衛星インターネットStarlink Businessを利用した。



今回のラリー三河湾では、実際の困難地帯において試作機による実証実験が行われた。

試験運用には「西浦シーサイド」と「岡崎桑谷とぼね」が選ばれ、HQやTCに送受信機や中継機を設置。本番環境での通信実験の結果、一定の成果が得られたとのことだ。